

小冊子（講演を文章化したもの）



1997年から2002年にかけて福岡市で開催された教育関係の講演記録です。講演は約3時間ですが、講話の部分を一部文章化しました。

当時の福岡での協力者によって、以前よりテープ起こしの原稿は出来ていましたが、出来るだけ多くの方々に手に取って読んでいただけるようにとの思いから、今回新たに竹下氏により編集し直したものを冊子化しました。（現在編集途中のものも、今後追加していきます）。

子育てを通して得られる智慧により、家庭、学校、職場での様々な人間関係の問題も解決できるようになります。本当の自分は何か、どう生きればよいのかということの参考になると思います。この小冊子をご希望の場合は、ユニティ・デザインまでご連絡ください。有償で頒布しています。詳しくは[アクセスサイト](#)をご覧ください。

また、[アクセスサイト](#)には同じものを掲載しており、無料でダウンロード出来ます。自由に何冊でも印刷して、ぜひお知り合いの方にも差し上げていただければと思います。

【子育て】 子供たちの心を感じられますか(1)～(6)：全6冊

【教育】 思春期の親子関係(1)～(4)：全4冊



【著者プロフィール】

竹下雅敏(たけしたまさとし)

1959年神戸市生まれ、広島県在住

子育て、人間関係、宗教学、自然療法など、幅広いテーマの講演活動を行っている。

監修図書「幸せを開く7つの扉」ビジネス社

豊かな心をもった自立した人間を育てるために

アクセスサイト：<http://www.unity-design.jp/jiritsu.html>

印刷・発行：ユニティ・デザイン

お問い合わせ：TEL&FAX 0823-22-8832

子供たちの心を感じられますか(1) — 妊娠・出産・子育て—

子育てと教育は切り離すことが出来ません。ですから子育てをどうするかということがわかれば、教育をどうすればいいかわかります。そのときに大切なのは、子供をどうという人間に育てたいのかということです。親、会社、国の都合のいい人間を創るのであれば、今のままの教育でいいのかも知れません。変化しつつある今の時代にあう教育、もっと人間の本質に根ざした教育とはどんなものだろうか、それが何なのかを知ることがもっと大切だと思えます。

私は、豊かな心をもった自立した人間を育てたいと思っています。そういう子供に育てるにはどうという子育て、教育をしたらいいのでしょうか。豊かな心をもつというのは何なのか。具体的にどうということなのか。それは読み進んでいただくうちに大まかな輪郭がつかめるのではないかと思います。もう一つの自立した人間というのはどうという人間だろうか。それは、自分のことは自分で決めることが出来る、そして決めたことで成功または失敗をしても、その結果についての責任をとることが出来る、そういう人間です。現代の社会は教育のせい、自分で

映像配信している竹下氏の講演テーマは大きく分けて5つあります。 ※一部準備中
会員登録していただくと、有料コンテンツ(1本1時間ほどの講演が525円)をご覧ください
ただです。普通にインターネットの操作ができる方であれば、簡単に会員登録と視聴
ができます。無料コンテンツや試聴映像をお試し下さい。なお、ネットが混み合う夜より
も朝昼の時間帯の方が快適にご覧いただけるようです。

視聴代金は、1ヶ月分をまとめて、翌月初めに明細をお送りして、郵便振り込み又は代
引きでお支払い頂いています。詳細は映像配信のページをご覧ください。

《テーマ1》 家族の絆 [連続講演]

夫婦関係そして親子関係がしっかりしてい
て家族の絆が深い家庭は、どんな逆境も必ず
乗り越えられます。しかし単なる経済的な
パートナーであるような夫婦だと、夫が職を
失ってしまうと、家族はばらばらになってし
まいます。男性が家族より仕事を優先するよ
うな価値観は、いやがおうでも変えさせられ
るような世界状況になっていきます。

正しい優先順位は、第1が夫婦、次が子供、
そして友人。仕事はずっと下です。

〈家族の絆～親子(1)～より〉

サブテーマ)

親子(親子関係)、夫婦(夫婦関係)

《テーマ2》 宗教学講座

この講座では宗教を科学的な視点から精密
に霊的な科学として捉え直します。そうする
ことで、あらゆる宗教のある意味での一致点
と相違点が明確になってくると考えています。

仏教、キリスト教、神哲学、ヒンドゥー教
の哲学、サーンキヤ・ヨーガなど、それぞ
れの世界観がどう違うのか、言葉を正確に定義
して、同じものは同じと捕まえて、宗教の全
体を理解することを目標としています。

〈初級コース第1回より〉

サブテーマ)

初級コース(中級上級コースは順次開講予定)

番外編:ダ・ヴィンチ・コードの真相

《テーマ3》 チャクラと波動

人間の身体には重層的に高次の身体が
あり、その神経中枢がチャクラと呼ばれ
ています。チャクラの活動は、その方の
意識と密接に関係しており、いわゆる「波
動(意識の高さの尺度)」を計るセンサー
としての機能もあるそうです。

インドに伝わるガヤトリー・マントラ
は、ガヤトリー女神を讃え智慧を授かる
ことをお願いするマントラです。このマ
ントラを使った除霊と浄化の祈りなど、
心身の浄化と波動を高めるための様々な
方法を竹下氏が解説します。

《テーマ4》 東洋医学講座(雑談集)

この講座は、中国医学、インドのアー
ユルヴェーダ、アロマセラピー、ホメオ
パシーなど、代替医療を統合する医療理
論を学ぶ講座です。テキストとDVDで
販売してきましたが、受講生の方に講座
の中の雑談が好評で、4期行われた講義
のうち教材にしていない映像から雑談部
分を再編集して公開します。

《テーマ5》 ホツマの神々

日本神道に伝わるホツマの神々について、
最近起こった事をお伝えします。

まず最初は、妊娠、出産以前の夫婦の心構えについてですが、まず自分の感受
性を信じてください。子育てや教育はこうじゃないといけないとか、誰かがこう
言ったからこうじゃないといけないというように考える人が非常に多いようです。
私が自分の子育てを自己採点すると多分五十五点ぐらいだと思います。とても百
点には及ばない。四十点以上を及第点にすればなんとか及第点はあるだろうとそ
のくらいの感じで思っています。ですから皆さんもいろいろな本を読んだり自分
で勉強したりして、出来れば百点に近づけていって欲しいと思います。
さっそくその妊娠、出産についての注意点を述べようと思うのですが、まず妊
娠を知ったときに大切なのは、両親が、周りの人が喜ぶということ。特に大切な
のは母親が受胎したことを喜ぶということです。実はお腹の中の赤ちゃんは母親
の心がわかっていて、退行催眠にかけて出産以前の意識状態に戻していくと、お腹の
いたある男性を、退行催眠にかけて出産以前の意識状態に戻していくと、お腹の
中にいたときに母親が大きな精神的苦痛を受けていたということがわかってきま
した。ですからお腹の中にいる子供を出来るだけ守る、心をかけてあげる、そう
いう意識を母親がもたなければならぬ。夫の方はストレスをかけないように協

うです。信じられないようなことですがどうも事実らしいのです。赤ちゃんの心がそこまで意心伝心でわかるという母親の心の豊かさというのはすごいですね。そういう子育てが人類の理想なのではないかという気がします。それに比べ私の子育てはあそこでこうしておいた方がよかったんじゃないかというのがたくさんありますので及第点ぐらいだと思います。ですから自分で考えた理想的な子育てを、自分の感受性を信じて行なって欲しいと思います。

(講演 1997年12月7日 福岡市)

〓〓この小冊子の内容は、転載、引用自由です。〓〓

腹の中に赤ちゃんがいる人にどんなに悪い影響を与えるかまったく考えていない。職場の問題というのは非常に大きいんです。それからコンピューターなどの電磁波も非常に危険です。そういう環境から女性を守るといふ社会的認知が不可欠です。配慮のない職場なら赤ちゃんのことを考えて、退職するかあるいは休職するという選択をした方がいいのではないかと思います。

子育てをするときに、母親も父親も赤ちゃんがお腹の中にいるうちから親子の関係をちゃんと作っておかなければいけません。ずっと仕事ばかりしてお腹の赤ちゃんをまったく気にかけないのはいけません。お腹の赤ちゃんにちゃんと話しかけるんです。どんなことでもいい、話しかけてあげる。そうすることで母親と赤ちゃんの絆を先に作っておきます。今研究者の間で母と子の絆はいつから作られるのかということが議論されていますが、実際にはお腹の中にいるうちに作ってしまう方がいいのです。

現実にお腹の中の赤ちゃんは、母親の心をテレパシー的に全部読んでしまっています。全部わかっています。「胎児は見ている」という本に、クリスティナという赤ちゃんが出てきますが、この赤ちゃんは母親の母乳をまったく飲もうとし

うと、当然成長してから過度の愛情要求をします。ここまでやったら親が困るということをやらようになります。自分に愛情が欲しいのに親が全然かまってくれないと、どんなことをすれば親がかまってくれるかを子供は本能的に知っています。そして一番困ることをやるのです。困ることは親によって違います。自閉症だったり登校拒否だったり、万引き、校内暴力、性的逸脱、拒食症、最悪の場合自殺だったりします。子供のときに十分にいてねいに育てると、後が楽になってその子は自立して育っていく、十六歳ぐらいになってぱっと手を放してしまえばいい。ところが育児は保育園に任せ、学校で躰をしてもらうつもりで育てると、二十歳になっても親の方は子離れが出来ないし、子供も親離れが出来ない。一生がめちゃくちゃになります。

ひよっとしたら十分に大切にして子育てをすることで、本当はもっとよい社会が生れるのではないか、かえってその方が楽なのではないかと思うのです。子育て中の数年間は大変ですが、うちの子のように、最初の一年半ひたすら抱いておくで後でほとんど抱っこが必要ないし、病気をしないので病院にも行かなくても済み、後がとても楽です。それ以上に子育てに手間がかかった分、実りもまた大

というのがわかってきました。まだ研究段階ですが、私はそういうことはあると思います。今までは妊娠中の母親の心理状態がホルモンに影響を与えて、お腹の中の赤ちゃんを刺激して感情を誘発するのだらうと思われていました。そういう生物的レベルではなく、今では超能力のレベルで研究されています。ですからお腹の中にいるときから親子の絆をしっかり作っておくことが大切です。その一番いい方法はお腹に手をあてて赤ちゃんに話しかけるのです。声に出しても心の中で話しかけてもいいのです。必ず毎日話しかけるんです。出来れば話しかける時間は長い方がいい。お父さんも仕事から帰ってきたら、必ずお腹に手をあてて赤ちゃんに話しかける。だんだんお腹の赤ちゃんが育って大きくなると、目が覚めていれば手をあてた瞬間に反応します。手をあてるとすぐにお腹の赤ちゃんが運動会みたいに動きます。これはある本の中に書いてあることなのですが、質問に対して、イエスならお腹を一回蹴る、ノーなら二回蹴るといふふうに話しかけて教えると本当にそういうふうに戻事をするのです。私は産まれる前から自分の子供が男の子だということがわかっていました。助産院では女の子だと言われていたのですが、私の勝ちでした。こうして出産前に親子の絆を作っておくと、病気

なったら練習しようか。勇気がなくなっておまるがよければそれでいいから。」と
ておく。そのうち子供が便意をもよおしたとき、「トイレでやってみる?」って
聞くと、「トイレでやってみる。」と言うから、椅子を使ってトイレに座らせると、
子供はとても緊張して肩に力が入っている。恐くて気が上がっているのです。緊
張したら出るものも出ないでしょう。五分しても出ないから、その時はあきらめ
て、「ちゃんとトイレに座れたじゃないか。よかったね」ってほめておく。また
次に座ってみる、でも出ない。その時に叱らないことです。忍耐が要ります。安
心させるために、「今度はすっと座れるようになったね。」って言ってほめてお
く。するとだんだんリラックスする。結局出たのは三回目でした。子供は「出来
たー出来たー!」って大喜びで母親に報告していました。出来たから喜んでい
るのはいいのですが、一度トイレで出来ると次にもトイレでしないと子供は
供にプレッシャーが生れるんです。こちらから見ていて体の緊張として表れます。
私は出来て喜んだ後体が緊張しているのに気づいて、「とも君、いつもトイレで
しなくていいんだよ。間に合わなければおまるですればいいんだから。」と言つと、
子供がほっとして体がだっと弛みました。これで成功です。ところがプレッシャー

に妊娠したときから十ヶ月先のことを準備しています。ところが医者が日曜日や
休日に出産があると困るといっているので、陣痛促進剤で予定日より出産を早めたり、
予定日に出産させようとする。これは問題になっていますね。そういうことをす
ると異常な出産になる。一番危険なのは赤ちゃんで、次にお母さんです。陣痛促
進剤を使うと、まだ母体の出産の準備が出来ていないのです。ゆっくりゆっく
り産道が開いてきて完全に開ききった、準備が出来たそのときに赤ちゃんは自分
ら産まれてくるんです。うちの場合は分娩台に乗って二十分ぐらいで産まれたの
ですが、さっと産まれてくるのです。ところが病院では陣痛間隔の長いうちから
分娩台に乗せ、さあ産めと頑張らせる、これでは無理なんですね。ちょうど出
る時期が来ていないのに緊張ってうんこを出そうと頑張るようなものです。赤ちゃ
んならなおさらです。出る時期が来ていないのに長いこと分娩台の上で緊張らせ
て疲れきって、いざ出産というときに産む力を失ってしまう。これは母体にも赤
ちゃんにも危険なことです。ですから陣痛促進剤を使ったり鉗子を使う無理矢理
な出産をすると、たいがいの女性はおっぱいが出なくなります。これが危ないの
です。

なトイレでしているんだよ、トイレでしたら。」と言っても、本人がおまるの方がいいと言うので、本人の意志を尊重してずっとおまるを使っていました。私は絶対強制はしませんので、子供が自分からトイレですると言うようになるまで待つんです。ただ小学校ではトイレが使えないと困りますし、そろそろおまるからトイレに移行させないといけない。こういふとき私は一年ぐらいの長期計画を立てます。ちょっとずつちょっとずつ子供に働きかけていきます。どうするかというところまず子供に、「どうしてトイレでしないの？」と聞きます。子供が「ぼくはおまるがいい。」と答えます。うちは母屋にしかトイレがないので遠いのですが、本当はトイレが恐いんです。水の流れる音と機械の作動音が恐いのです。子供によって臆病、いのように言うのと慎重なタイプがいて、うちの子はとても慎重なのです。子供が傷つくから「恐いんだろっ？」「なんて言っちゃいけない。」そうかー。そのうち自然に出来るようになるから、ゆっくり一年二年して出来たらいいよ。」って言うておくんです。一応トイレで出来るようにならなければいけないと子供の頭に入れておきます。それから二三日後に、「お父さんがうんこするけど、一緒にトイレに行かない？、見に行かないか？」と言って、一緒にトイレ

大変なことです。

出産というのは子供の成長、産後の母親の経過を決定してしまいます。ですから自然の摂理に従って十分に待つて出産をすることが大切です。出産の急所は一言で言うところ「待つ」ということです。赤ちゃんが自らの力で産まれてくるまで十分に「待つ」ことなんです。一番安産なのは産婆さんが間に合わないような、まだ産まれちゃ困るといふような心理状態だとずっと産まれるものです。早く産まそうと思つと結構産まれにくい。医者任せ、人に頼る気持ち、逆に我を張つて自分の力で産むんだという気持ちがあると、うまく産めない。一番簡単なのはお腹の中に赤ちゃんがいるうちに、「あなたが準備の出来たときに楽に産まれてくるのよ。」といつも話しかけておくことです。するとずっと楽に産まれてくるんです。もっと赤ちゃんを信じてあげる、任せてしまふ。出来れば助産婦さんに手伝ってもらつて自宅で産むか、信頼できる助産院で産むのがいいと思います。なるべくめっちゃくちゃな出産をさせられないために、大病院は避けた方がいいと思います。お腹の中にいるときから十分に話しかけられ愛され大切にされた赤ちゃんは、人間の顔をして産まれてきます。赤ちゃんの顔が違ふのです。全然かまわれるこ

動には必ず理由があるのです。それを理解すると子育ては非常に楽になります。

最近のことで子供は五歳なんですが、プラレールっていう電車のおもちゃのレールを買ってあげました。子供は私から見てこれはちょっとしんどいなっていう中腰の姿勢で床の上にある電車を動かして、二時間ぐらい遊んでいました。その日の夜、ふだんは寢床なんかで騒がない子なのに、はしゃいで寢ないのです。そういうときは早く寢なさいって怒っちゃいけないんですね。この理由は非常に簡単なんです。不自然な中腰の姿勢で遊んでいるので腰がこっているんです。子供というのは意外なくらい肩、首、腰などがこっています。赤ちゃんでも寢返りが出来るようになったり立てるようになったときは、その部分の筋肉がこります。しばらくすると機嫌が悪くなります。子供が機嫌が悪いときはたいがいどこかの筋肉がこっています。しっかりマッサージというか撫でてあげることが大切で、体を他動的に動かしたり回してやったりする。すると子供の年齢が小さいほどすぐにくりがほぐれて、またもとのいい子に戻ります。むずがったり騒いだりはしゃいだりしている子供は必ず体のどこかがこっています。遊びや歩いたりすることから起こっているんです。それで夜布団の上で、騒いだりはしゃいだり、でんぐ

ずっと目が見えているんです。そういうことをしないで普通の明るさにすると赤ちゃんは一ヶ月間、目が見えていないのです。赤ちゃんが両親の顔を注視したり目で追ったりするのに一ヶ月かかるのです。ところが薄暗い環境だと初めから目が見えている。うちの子は私の顔を目で追ってちゃんと焦点が合っていました。このことは脳の回路のつながりを考えてもらったらしいのですが、産まれて間もない頃はすまじい勢いで脳のネットワークを作っているのですから、見えているか見えていないかが脳の発育に決定的な意味を持っているわけです。目が見えなかつたかどどちらの赤ちゃんの頭がよいのだろうかと考えて欲しいのです。これは才能教育では追いつかないぐらい決定的な差があります。

私は産科の人が帝王切開と普通の出産との違いに疑問をもたず、何かあるとすぐに帝王切開で済ませてしまうという感覚に疑問を感じています。帝王切開では赤ちゃんは産道を通らずに産まれます。肌をこすられることで多分一時間目覚めていられるのではないか、帝王切開で産まれた子供は一時間目覚めていないのではないかと思うのです。ですからどういいう出産をするかということが非常に大事だと私は思っています。大病院ではほとんどの場合、出産するとすぐに親子が離

るに座らせると出ない。妻にしてみると子供が嘘をついたと思うんですが、本当は愛情の要求なんですね。やっぱりどんなに大切に育てたつもりでも、どんなに赤ちゃんのことをかまってもあげたい、赤ちゃんが要求したらすぐに願いをかなえてあげたいと思っていても、疲れていたら出来ない。私もそういう意味では失格かも知れないんですが、男性は本当にもっと女性のことを考えてあげなければいけない。女性は育児と家事で疲れきります。母親が疲れていると子供の要求をかなえてあげられない。すると子供は愛情不足を感じる。それで母親の愛情を何とかとろうとする。どうするかというと母親の一番気にかかることをするんです。うちの場合で言うとうんこって言うのと来てもらえるということを子供が発見して。だから妻が「うんこ？」って聞くと子供が「うん。」と言う。ところがおまるに座らせると出ない。母親が腹を立てますね。すると子供は自分が嫌われている気がする。だから母親の愛情を確認したくてまた何か要求をして騒ぐ。これを繰り返すわけです。だんだん母親は腹が立ってきて怒っちゃうわけです。最後には子供が嘘をつくと言ってお尻をたたくようになったんです。私は本人に自分自身で気づいてもらいたいのであるべくこういような母子の関係に介入したくない。

がわかるようになって来ます。そうすると非常に楽です。一番最初は三日目ぐらいに「おしっこ？うんこ？」と聞きますね。すると赤ちゃんがおしっこで泣いているんだったら、「おしっこ？」と聞いたときにわあわあ泣いていたのが、ほんのちょっとですが泣き止む。ちょっと泣き方が変わる。「あ、これはおしっこだ。」とわかるわけです。こいつらこいつらに話しかけていくと双方で理解が出来るようになります。二週間目、三週間目になると泣く回数がぐんと減ってきます。ただ赤ちゃんはまだ表情筋が動かせないので、にっこりと笑ったりうなずいたり出来ません。ですからこちらの言うことがわかっているのに返事が出来ないだけなのです。

赤ちゃんに出来るのは泣くことだけで、泣き方に変化をつけて親にわかってもらおうとします。二週間、三週間目にはこちらが赤ちゃんの言おうとすることがわかってきます。そのうちにまだ顔の筋肉は動かせませんが、赤ちゃんの目が笑うようになります。「おしっこか？、うんこか？、抱っこか？」と聞くと、抱っこをして欲しいのなら、「抱っこか？」と聞いたときに目が笑うようになる。こうして子供を育てていくと、一ヶ月目ぐらいから泣くのは一日に一回未満、二ヶ

すが、そうでなければ十分に愛情深く育てると成長は遅れるのが普通です。ですから自分の子供の成長が何ヶ月か遅れていても、心配する必要は全然ないのです。その子の成長に合わせて育ててやるのです。いろんな育児書には、おむつが普通ならどれくらいでとれるとか、離乳食はどんなときにどんなものを与えるとかがこと細かに書いてあって、本によって書いてあることが全部違っていたりする。だからこそ自分自身の感性を信じて欲しい。自分が信じる道を行って欲しいのです。

たとえばおむつをとることについてですが、うちのもう一つはかなり深刻な失敗談です。実はある本を読んでいて、おむつは六ヶ月位でとれるのが本当だと書いてありました。きちっと育てたら六ヶ月くらいでおむつがとれるのかも知れません。ところがよくその本を読んでもみると、六ヶ月でとったというその人たちも、結構後で失敗しているんです。抱っこしたままおしっこされて服を濡らされたり、抱っこしたままうんこされたりして結構失敗してる。そういう意味で見たら本当に六ヶ月できちっとおむつがとれるかどうかはわからないわけです。だからそんなに早くとる必要はない。ところが妻は早くおむつがとれるのが正しい育児をし

当にうわーと泣き出します。泣き出す前に赤ちゃんはいろいろなサインを出しているわけですが、家事の方が忙しくて赤ちゃんを放っておくと、赤ちゃんは本気で泣き出すわけです。赤ちゃんにしてみれば、「こんなに呼んでいるのに何で来てくれないの?」というわけです。本気で泣き出してしまつと、おっぱいの要求であっても、赤ちゃんが腹を立てているのでおっぱいを飲みません。大人と同じなんですね。そうすると母親の方は、おっぱいではない(本当はおっぱいなんですよ)、おしっこでもない、うんこでもない…、何なのだろうと、なぜ泣いているのかわからなくなるわけです。これは赤ちゃんの信号を見のがしたということです。ですから出来るかぎり早く赤ちゃんの信号に気づいて、足をばたばたさせているうちに気づいて、「おっぱいか? うんこか?」と聞いて育てると、まったく泣かせないで育てることが出来ます。

赤ちゃんというのは本当に理由がないと泣きません。特に大きな要求は、抱っこして欲しいということ。何より大切なのは母乳です。出来るかぎり長く母乳を与えて欲しいのです。今の時代では母乳の出る人ですら、半年くらいで母乳を止めています。母乳を短い期間しか与えないことは問題が多いのです。病気の

出産を例にとると、まだ産まれる前の時期は十分な愛情をかける、そして出産の時期これは独立の時期になりますが、このときに一番大切になるのは「待つ」となっています。これはすべて同じで、ふだんは子供に十分な愛情をかけて育てています。そして子供が自己を主張しはじめて親から少し離れようとする時期、もちろん完全には離れないわけですが、そのときに絶対に躰を急がない、十分に「待つ」ということがとても大事です。早くおむつをとろうとしたり、早く部屋を片づけられるようにさせたり、そういうことを絶対にしない。子供の成長に合わせていく。人によって全部成長の速度が違います。

はいはいにしても、歩くことにしても、歯が生えることにしても、早い方がいいと思われています。ですが本当のことを言うと、十分な愛情をかけて育てると、実は歩いたりしゃべったり歯が生えたりするのは遅いのです。ですから三ヶ月も四ヶ月も人より遅れているということがありますが、全然心配することはないのです。ところが十分な愛情や栄養を与えないで育てると、たとえば歯が早く生えてきたり、早く歩けるようになります。栄養の最大のもものは母親の愛情で、次が食べ物です。母親の愛情という十分な栄養が足りないので、固形食とか何か食べ

に手を抜いた離乳食ですから楽なんですね。ところが全然病気をしません。私の子供は五歳の今まで一度も病院に行ったことがないのです。病気をしなかったということは、多分正しい食事だったのだらうと思うのです。なぜ病気をしないのかというと、一番大切なのは母親の愛情なんです。本に載っていたのですが、心筋梗塞になるような食事をうさぎに与えて、いくつかのグループに分けて実験をしたのですが、あるグループだけは心筋梗塞になりにくかったのです。原因がわからなかったのですが、ひよんなことからそのグループを担当していたある研究生がそのうさぎを毎日抱いて撫でてやっていたことがわかったんです。それで他のグループにもそうしてみたら、同じ結果になったそうです。食事内容だけでは栄養価は測れないのではないのでしょうか。撫ぜたり優しく話しかけることが赤ちゃんにとってどんな栄養効果があるかは、今の科学ではまだ研究されていないのです。

「胎児は見ている」という本に書いてあるのですが、早産で集中治療室に入っていた赤ちゃんを、看護婦さんが一時間に五分だけ体を撫でてあげる実験をしたら、撫ぜた赤ちゃんは撫ぜなかった赤ちゃんに比べて急速に成長したそうです。

意をとって行ないます。子供の意志を尊重するのです。たとえば友人が子供を抱きたいと言ったときは必ず子供に、「彼が抱っこしたいと言っているけど、いいかな?」と聞くんです。子供がにこっと笑って同意したときのみ、子供を抱いてもらっていました。ところが子供が生後十ヶ月位るとき、その友人が「抱いてもいいですか。」と聞いたとき、私がかもう何度も抱かれていたからいいだろうとっかり子供の同意をとらずに、すっと子供を彼に渡してしまったのです。そのときは子供は機嫌がよかったので私にはわかりませんでした。それから私は仕事に出て、夜家に戻ってきました。いつもならにこにこ迎えてくれる子供がその日は顔をそむけて目をそらしていました。無理矢理顔をこちらに向けさせても目をそらす。「あれー、これはおかしい。いつもと違うぞ。」と思って、なぜだろうと夫婦で思案しましたが、理由がわかりません。それで今日一日何があったか思い出していて、ふっと同意をとらずに抱っこさせたことを思い出しました。それで子供に、「今日、同意をとらずに友人に抱っこしてもらったのを怒っているんだろう。ごめん。」と謝ったら、子供がにこっとするのはいいのです。言葉はまだ話せない時期ですが、大人の話すことは全部わかっているんです。言語的になのかテレパシー的

くようになる全然抱っこしてくれとは言いません。抱いてもらいたいという要求が十分に満たされて落ちているので、抱っこして欲しいときに少し抱いてやるとすぐに満足します。後がとても楽です。十分に抱いて育てなかった場合は、小学生になっても兄弟で争って親を取り合い、抱っこをせがんでいるのはよくあることです。

なるほど子育ては簡単だな。要するに抱っこすればいいんだらうと思うでしょう。そうではない。赤ちゃんを抱っこしますね。抱っこしても形では抱いているけれど心は家事の方に向いている。早くこの子が寝てくれないかなー、そしたら早く家事が出来るのに…。これでは絶対赤ちゃんは満足しません。いくら抱いてもだめです。だから形だけ抱いても意味がないんです。抱いているときは赤ちゃんの顔を見て心を通わせるように、気をこめて、心をこめて抱かないといけません。私が抱いたときと妻が抱いたときは全然違うのです。赤ちゃんが足をばたばたばた動かしますね、ぱっと抱き上げます。私が抱くときはじっと赤ちゃんを感じているわけですね。心をこめて抱く。するとすぐに寝るんです。そして完全に寝たのを確認してそーっと置きます。しばらくそばに居て、それからこれは絶

合は、特に愛情が欲しいと訴えていると思って欲しいのです。三歳になるまでは十分な愛情を与える、「私はあなたを愛していますよ」というメッセージを態度で、そして言葉でも表して欲しいのです。「…ちゃん、大好きだよー。」って言って育てていく。そうしたら子供が安心して本当にいい子に育ちます。

ふだんは愛情の要求を十分にならえておいて、たとえば新幹線に乗るときに先に子供に、「これから新幹線に乗るからね。こつこつところは騒いじゃいけない。楽しいからって騒ぎたくなるけど静かにしておかないといけない。我慢出来るかな。」と言っておくんです。「我慢出来る。」と子供が言う。「じゃあ、乗ろうか。」って乗ると、子供は楽しいからついで大きな声を出しますよね。その時「しー。」と言うとわかったって顔をして、後は二時間ぐらい静かにしています。協力してくれるんです。親が今まで十分にやっているの、子供がそれに答えてくれます。なるべく子供の願望をかなえて育てて、嫉の時期に、何をしてもいいのか、何をしてもいけないのかを少しずつ教えていく。そういうふうにかかわると後が本当に楽です。病気もしないし素直な子供に育ちます。

赤ちゃんには感情、理性、意志がないとか、どうも言葉を発するようになって私たちの子育ても完璧ではなくかなりの失敗をしてしてきました。あれは失敗したなというのは、歯が生えてきて一歳六ヶ月の時に、私の妻がおっぱいをやるのを嫌がって辞めたいと言い出したのです。赤ちゃんが飲みただけ母乳を与えるというのが理想的ですが、妻が自分の責任でもう辞めると言うのです。もう一ヶ月母乳をやった方がいいと言っても聞かない。私はどうしても辞めると言うならそうしたらいいと認めたんです。その代わり何が起るかわからないよと。そうしたら夜泣きをしたことがない子でしたが、三日続けて夜中に一度夜泣きしました。夜泣きぐらいで済んでよかったと思います。何が起るかわからないものですから。実際にはあまり早く母乳を切ってしまうと、子供は愛情の要求が満たされていないので夜泣きやおねしょをします。おねしょをするというのは、子供がもっと愛情を注いで欲しいというメッセージなのです。ですからおねしょをしてそのことを母親に怒られると、さらに愛情の確認をするためにまたおねしょをします。そしてこれが悪循環になって簡単にはおむつがとれなくなりません。おねしょをしたときは決して怒らないことです。子供を抱きしめて、「お母さんは…ちゃん

